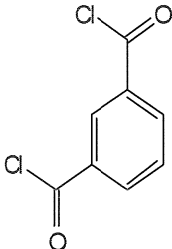


微生物を用いる変異原性試験結果報告書

1 一般的事項

化学物質の名称 (IUPAC 命名法による)	イソフタル酸ジクロリド		
別 名	1,3-Benzenedicarbonyl dichloride		
構造式又は示性式 (構造が単一で示せない場合はその組成)			
試験に供する 化学物質の純度	99.9%	試験に供する 化学物質の Lot No.	2 KJAO-ER
不純物の名称及び 含有率 (濃度)	—		
C A S 番 号	99-63-8	蒸 気 圧	4.0Pa/25°C
分 子 量	203.02	分 配 係 数 (1-オクタール/水分配係数)	—
融 点	45°C		
沸 点	142°C/2kPa	常温における性状	白色結晶
安 定 性	水：水との接触により分解し、有毒なガスを発生する。 光：— 熱：—		
溶媒に対する溶解度等	溶 媒	溶 解 度	溶 媒 中 の 安 定 性
	水	—	—
	DMSO	—	—
	脱水アセトン	溶解[100mg/ml 以上]*	—

*日本バイオアッセイ研究センターの試験による。

2 試験に用いた菌株

菌 株 名	入 手 先	入 手 年 月 日
TA100	東京大学医科学研究所癌生物学研究部	1985年 6月 21日
TA1535	同 上	1988年 5月 16日
TA98	同 上	1988年 5月 16日
TA1537	同 上	1988年 5月 16日
WP2 <i>uvrA</i> / pKM101	同 上	1983年 6月 29日

3 S9 mix

(1) S9の入手方法等

自 製 ・ 購 入 の 別	1. 自 製 ②. 購 入 (製造元: キッコーマンバイオケミファ株式会社)
製 造 年 月 日	2014年 3月 20日 製造
購入の場合のLot No.	RAA-20140320
保 存 温 度	-80℃ (保存機器名 三洋電機株式会社 MDF-392AT)

(2) S9の調製方法

使 用 動 物		誘 導 物 質	
種・系統	ラット・ Sprague-Dawley (Slc:SD)	名 称	フェノバルビタール (PB) 及び 5,6-ベンゾフラボン (BF)
性	雄		
週 齢	7 週	投 与 方 法	腹 腔 内 投 与
体 重	179~229 g	投与期間及び投与量 (g/kg 体重)	1日目(投与開始日) : PB 0.03 2日目~4日目 : PB 0.06 3日目 : BF 0.08

(3) S9 mixの組成

成 分	S9 mix 1 ml 中の量	成 分	S9 mix 1 ml 中の量
S9	0.1 ml	NADPH	4 μ mol
MgCl ₂	8 μ mol	NADH	4 μ mol
KCl	33 μ mol	Na-リン酸緩衝液	100 μ mol
グルコース-6-リン酸	5 μ mol	その他 (-)	-

4 被験物質溶液の調製

使用溶媒	名 称	製 造 元	Lot No.	グ レ ード	純 度 (%)
	脱水アセトン(モレキュラーシーブスで脱水したもの)	和光純薬工業株式会社	KWP4897	高速液体クロマトグラフ用	99 以上
溶媒選択の理由	被験物質は水や DMSO と反応することが考えられること、被験物質の溶解度は、脱水アセトンに 100 mg/ml [被験物質溶液量をプレート当たり 50 μ l にした場合に 5000 μ g の被験物質に相当する] 以上であり、被験物質に脱水アセトンを加えた際に、発色、発泡、発熱等の変化は見られなかったことから溶媒に脱水アセトンを選択した。				
被験物質溶液の性状	溶解 懸濁 その他 ()				
被験物質が難溶性の場合における懸濁等の方法	—				
溶液の調製から使用までの保存時間と温度	用量設定試験 本試験	40分、 30分、	25°C 25°C		
純度換算の有無	有			無	

5 前培養の条件等

(1) 条件

ニュートリエントブロス	名 称	製 造 元	Lot No.
	Oxoid ニュートリエントブロス No.2	OXOID LTD.	941971
前 培 養 時 間	10 時間 00 分		
培養容器 (形状・容量)	形 状 : 三角フラスコ	容 量 : 62.5 ml	
培 養 液 量	15 ml	接 種 菌 量	30 μ l

(2) 前培養終了時の生菌数等

菌 株 名		塩基対置換型			フレームシフト型	
		TA100	TA1535	WP2uvrA/ pKM101	TA98	TA1537
生 菌 数 ($\times 10^9$ / ml)	用 量 設 定 試 験	2.23	3.38	3.98	2.56	2.39
	本 試 験	2.33	3.25	3.95	2.77	2.41
測 定 方 法 (いずれかを○で囲むこと)		①. O.D. 値よりの換算 2. 段階希釈法 3. その他 ()				

6 最少グルコース寒天平板培地

自製・購入の別	1. 自製 (2.) 購入(製造元：オリエンタル酵母工業株式会社)
製造年月日	2014年4月15日 製造
購入の場合の Lot No.	ANI200DD
使用寒天の名称・ 製造元・Lot No. 等	使用寒天の名称：伊那寒天 BA-30A 製造元：伊那食品工業株式会社 Lot No. : 31122

7 試験の方法

(1) 試験方法とその選定理由

採用した試験方法	(1.) プレインキュベーション法 2. プレート法 3. その他 ()
その他の場合は その選定理由	—

(2) 試験条件 (プレート当たり)

プレインキュベーション法		
組 成	菌懸濁液	0.1 ml
	被験物質溶液	0.05 ml
	Na-リソ酸緩衝液(直接法による場合)	0.5 ml
	S9 mix(代謝活性化法による場合)	0.5 ml
	トップアガー	2 ml
プレインキュベーション	温 度	37 ℃
	時 間	20 分
インキュベーション	温 度	37 ℃
	時 間	48 時間

8 コロニー計測の方法

計測方法	(1.) マニュアル計測 (2.) 機器計測
補正の有無	1. 無 (2.) 有(補正の方法 面積及び数え落とし補正)

9 試験結果

(1) 試験の結果は別表による。

(2) 結果の判定

判 定	陽性 陰性
<p>[判定の理由]</p> <p>用量設定試験の結果を表-1に、本試験の結果を表-2及び図-1～10に示した。</p> <p>用量設定試験を最高用量5000 μg/7°プレートより公比4の7用量で実施したが、TA98、TA100、TA1535、TA1537及び WP2 <i>uvrA</i>/pKM101の直接法による場合及び代謝活性化法による場合に陰性対照(溶媒対照)値の2倍以上の復帰変異コロニー数の増加はみられなかった。生育阻害はすべての菌株の直接法による場合及び代謝活性化法による場合にみられた。</p> <p>最高用量を生育阻害を示す用量とし、公比2の7用量で本試験を実施したが、TA98、TA100、TA1535、TA1537及び WP2 <i>uvrA</i>/pKM101の直接法による場合及び代謝活性化法による場合に陰性対照値の2倍以上の復帰変異コロニー数の増加はみられなかった。</p> <p>陽性対照物質は、それぞれの試験菌株において陰性対照値の2倍以上の復帰変異コロニー数を誘発した。また、陰性対照値及び陽性対照値は、当センターのヒストリカルデータより作成した基準の範囲内であった。これらの結果は試験が適切に実施されたことを示している。</p> <p>以上の結果より、イソフタル酸ジクロリドの微生物に対する変異原性は、陰性と判定した。</p>	

(3) 参考事項

コロニー数の計測は、沈殿の著しいプレートにマニュアル計測を実施した。

10 その他

試験実施施設	名称	中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター	
	所在地	〒257-0015 神奈川県秦野市平沢 2445	電話 0463 (82) 3911 FAX 0463 (82) 3860
試験責任者	職氏名	[REDACTED]	
	経験年数	[REDACTED]	
試験番号	6359		
試験期間	2014年6月3日 ~ 2014年9月10日		

表-1

試験結果表（用量設定試験）

被験物質の名称：イソフタル酸ジクロリド

試験実施期間		2014年 6月 17日から 2014年 6月 20日									
代謝活性化系の有無	被験物質の用量(μg/プレート)	復帰変異数(コロニー数/プレート)									
		塩基対置換型					フレームシフト型				
		TA100		TA1535		WP2uvrA/pKM101	TA98		TA1537		
S9 mix (-)	陰性対照 (溶媒対照)	107	136	13	17	121	106	20	20	12	13
		122	105 (118)	13	9 (13)	104	122 (113)	27	22 (22)	7	13 (11)
	1.22	108		12		102		20		10	
		112 (110)	11 (12)		113 (108)		21 (21)		17 (14)		
	4.88	112		10		130		17		11	
		102 (107)	13 (12)		118 (124)		19 (18)		16 (14)		
	19.5	100		10		115		24		15	
		99 (100)	9 (10)		102 (109)		9 (17)		16 (16)		
	78.1	119		10		115		27		13	
		107 (113)	1 (6)		105 (110)		25 (26)		13 (13)		
313	0*		0*		71*		0*		0*		
	0* (0)	0* (0)		75* (73*)		0* (0*)		0* (0*)			
1250 †	0*		0*		0*		0*		0*		
	0* (0)	0* (0)		0* (0*)		0* (0*)		0* (0*)			
5000 †	0*		0*		0*		0*		0*		
	0* (0)	0* (0)		0* (0*)		0* (0*)		0* (0*)			
S9 mix (+)	陰性対照 (溶媒対照)	119	97	7	13	134	151	27	21	16	18
		107	96 (105)	8	9 (9)	129	127 (135)	25	27 (25)	20	18 (18)
	1.22	110		11		133		29		9	
		105 (108)	18 (15)		160 (147)		28 (29)		20 (15)		
	4.88	106		11		142		27		20	
		104 (105)	18 (15)		158 (150)		39 (33)		24 (22)		
	19.5	116		4		143		25		16	
		105 (111)	8 (6)		135 (139)		28 (27)		18 (17)		
	78.1	127		13		130		25		19	
		120 (124)	6 (10)		147 (139)		28 (27)		27 (23)		
313	138*		8*		145*		18*		10*		
	121* (130*)	10* (9*)		133* (139*)		19* (19*)		19* (15*)			
1250 †	0*		0*		98*		0*		0*		
	0* (0*)	0* (0*)		104* (101*)		0* (0*)		0* (0*)			
5000 †	0*		0*		0*		0*		0*		
	0* (0*)	0* (0*)		0* (0*)		0* (0*)		0* (0*)			
陽性対照	S9 mixを必要とするもの	名称	AF-2		NaN ₃		AF-2		AF-2		9-AA
	用量(μg/プレート)	0.01		0.5		0.005		0.1		80	
	コロニー数/プレート	568		345		1104		551		642	
		543 (556)		400 (373)		871 (988)		465 (508)		494 (568)	
陽性対照	S9 mixを必要とするもの	名称	2-AA		2-AA		2-AA		2-AA		2-AA
	用量(μg/プレート)	1		2		2		0.5		2	
	コロニー数/プレート	1076		278		1062		468		188	
		1133 (1105)		297 (288)		921 (992)		479 (474)		193 (191)	

【備考】

1. 菌の生育阻害が認められる場合は、該当する数値の右に*印を付した。
2. () 内には各プレートのコロニー数の平均値を記入した。
3. 復帰変異数は、被験物質用量の低い順に実測値及び平均値を記入した。
4. プレート上に沈澱が析出した場合は、その用量に†印を付した。
5. 陽性対照物質の名称 AF-2: 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド、NaN₃: ナトリウム・アジド、9-AA: 9-アミノアクリジン、2-AA: 2-アミノアントラセン

表-2

試験結果表 (本試験)

被験物質の名称：イソフタル酸ジクロリド

試験実施期間		2014年 6月 23日から 2014年 6月 26日									
代謝活性化系の有無	被験物質の用量 (μg/プレート)	復帰変異数 (コロニー数/プレート)									
		塩基対置換型					フレームシフト型				
		TA100		TA1535		WP2uvrA/pKM101	TA98		TA1537		
S9 mix (-)	陰性対照 (溶媒対照)	95 91 100 98 (96)	7 9 10 12 (10)	120 112 100 129 (115)	20 16 21 18 (19)	19 21 19 18 (19)					
	4.88	96 115 (106)	7 13 (10)	119 105 (112)	19 10 (15)	13 10 (12)					
	9.77	106 94 (100)	12 11 (12)	135 118 (127)	25 16 (21)	13 18 (16)					
	19.5	107 110 (109)	11 11 (11)	98 121 (110)	12 20 (16)	16 21 (19)					
	39.1	99 116 (108)	9 11 (10)	118 110 (114)	15 9 (12)	15 19 (17)					
	78.1	103 95 (99)	11 11 (11)	114 134 (124)	24 17 (21)	19 16 (18)					
	156	82* 72* (77*)	7* 8* (8*)	129* 127* (128*)	13* 20* (17*)	12* 13* (13*)					
	313	0* 0* (0*)	0* 0* (0*)	98* 89* (94*)	0* 0* (0*)	0* 0* (0*)					
	S9 mix (+)	陰性対照 (溶媒対照)	96 105 96 95 (98)	13 15 9 8 (11)	169 146 122 124 (140)	29 19 21 29 (25)	17 17 22 22 (20)				
		4.88	90 105 (98)	12 10 (11)	158 159 (159)	26 26 (26)	16 21 (19)				
		9.77	96 92 (94)	15 8 (12)	176 153 (165)	22 15 (19)	12 21 (17)				
		19.5	110 94 (102)	11 13 (12)	173 152 (163)	18 27 (23)	19 24 (22)				
		39.1	100 98 (99)	10 16 (13)	186 165 (176)	27 27 (27)	17 18 (18)				
		78.1	111 118 (115)	13 10 (12)	180 176 (178)	20 21 (21)	20 26 (23)				
		156	100 97 (99)	13 10 (12)	158 164 (161)	16 24 (20)	18 19 (19)				
		313	95* 96* (96*)	12* 11* (12*)	137* 138* (138*)	21* 22* (22*)	24* 21* (23*)				
陽性対照		S9 mixを必要とするもの	名称 用量(μg/プレート)	AF-2 0.01	NaN ₃ 0.5	AF-2 0.005	AF-2 0.1	9-AA 80			
	名称 コロニー数/プレート	2-AA 1	2-AA 2	2-AA 2	2-AA 0.5	2-AA 2					
	名称 コロニー数/プレート	AF-2 1039 1030 (1035)	NaN ₃ 240 258 (249)	AF-2 1009 927 (968)	AF-2 467 479 (473)	9-AA 196 202 (199)					
	名称 コロニー数/プレート	2-AA 1039 1030 (1035)	2-AA 240 258 (249)	2-AA 1009 927 (968)	2-AA 467 479 (473)	2-AA 196 202 (199)					

【備考】

1. 菌の生育阻害が認められる場合は、該当する数値の右に*印を付した。
2. ()内には各プレートのコロニー数の平均値を記入した。
3. 復帰変異数は、被験物質用量の低い順に実測値及び平均値を記入した。
4. 陽性対照物質の名称 AF-2: 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド、NaN₃: ナトリウム・アジド、9-AA: 9-アミノアクリジン、2-AA: 2-アミノアントラセン

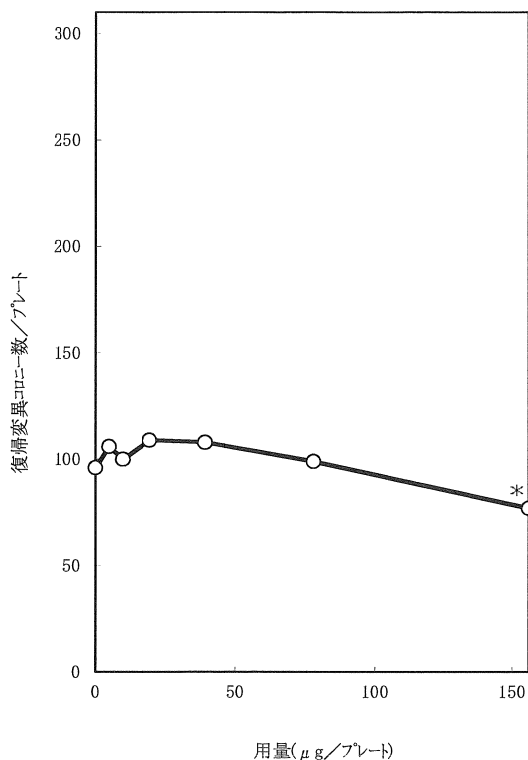


図-1 TA100における用量-反応曲線
直接法による場合 (本試験)
(156 μg/プレートまでをプロットした。)

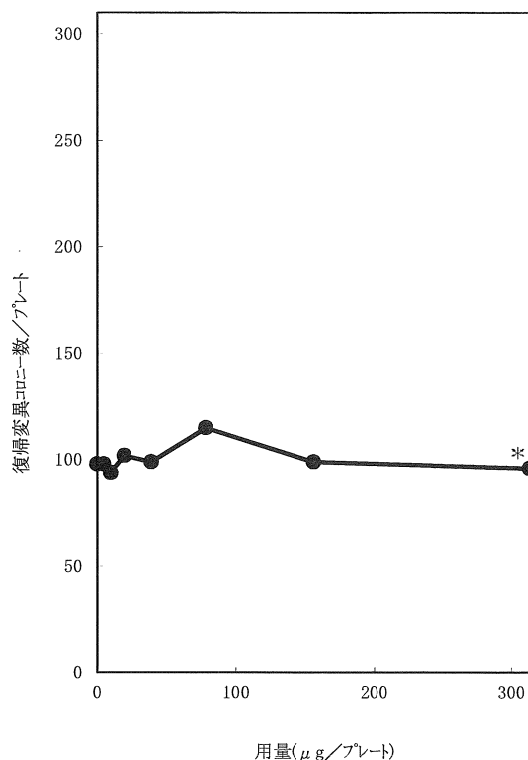


図-2 TA100における用量-反応曲線
代謝活性化法による場合 (本試験)

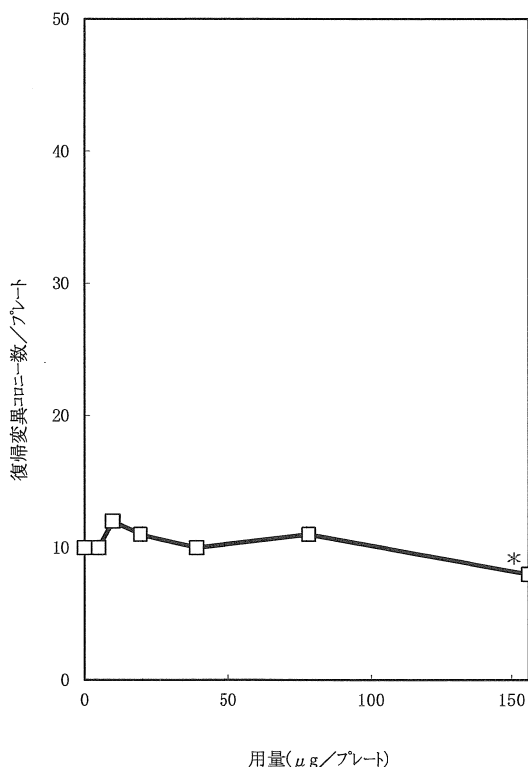


図-3 TA1535における用量-反応曲線
直接法による場合 (本試験)
(156 μg/プレートまでをプロットした。)

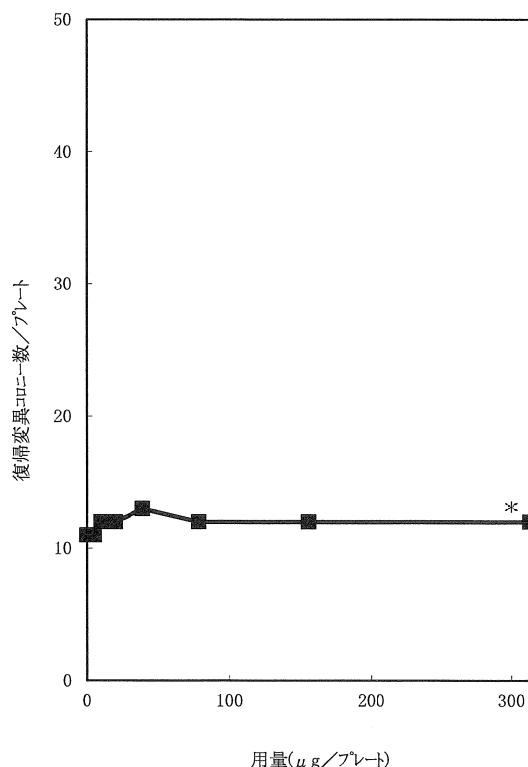
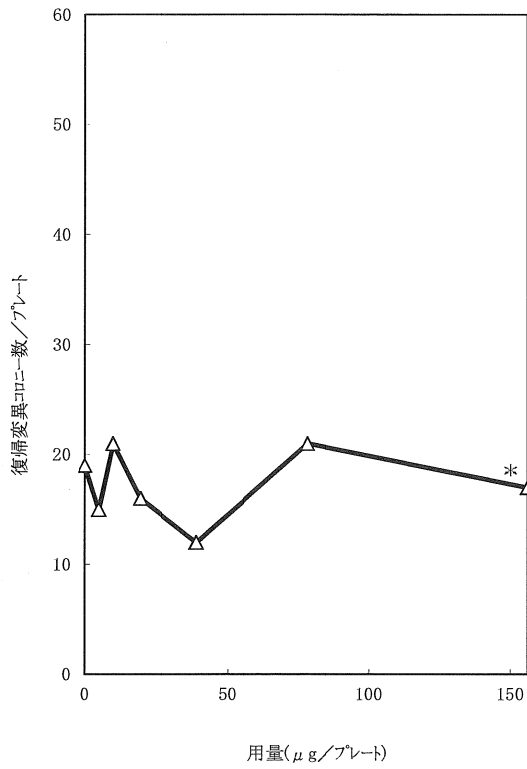
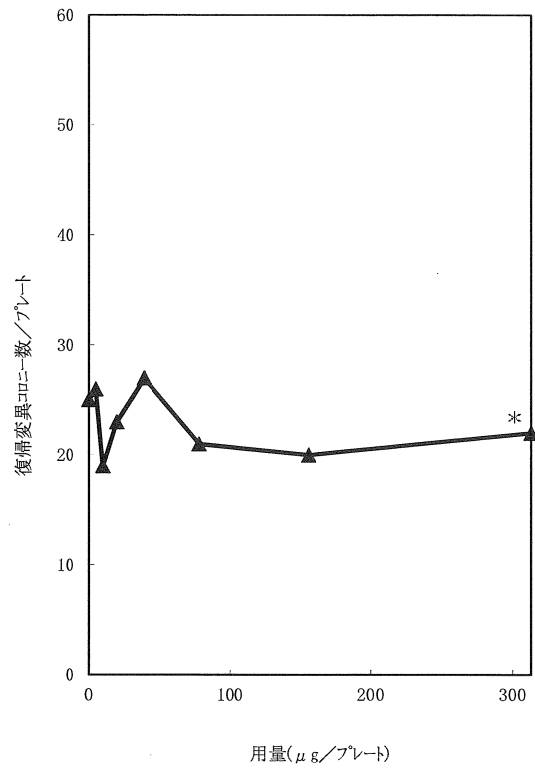


図-4 TA1535における用量-反応曲線
代謝活性化法による場合 (本試験)

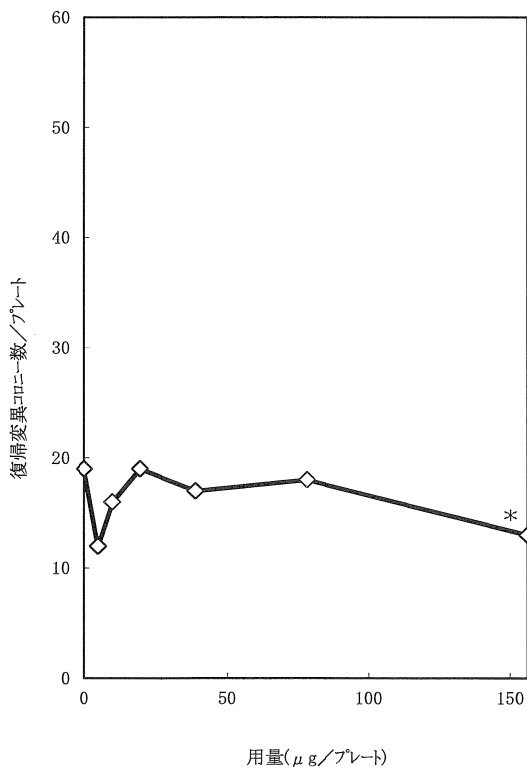
注：生育阻害が認められる場合は、該当するポイントの左上に*を付した。



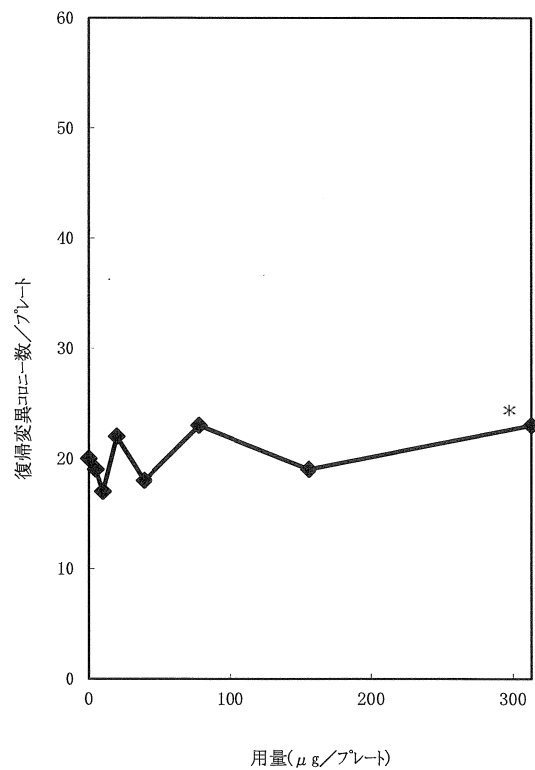
用量(μg/プレート)
 図-5 TA98における用量-反応曲線
 直接法による場合 (本試験)
 (156 μg/プレートまでをプロットした。)



用量(μg/プレート)
 図-6 TA98における用量-反応曲線
 代謝活性化法による場合 (本試験)



用量(μg/プレート)
 図-7 TA1537における用量-反応曲線
 直接法による場合 (本試験)
 (156 μg/プレートまでをプロットした。)



用量(μg/プレート)
 図-8 TA1537における用量-反応曲線
 代謝活性化法による場合 (本試験)

注：生育阻害が認められる場合は、該当するポイントの左上に*を付した。

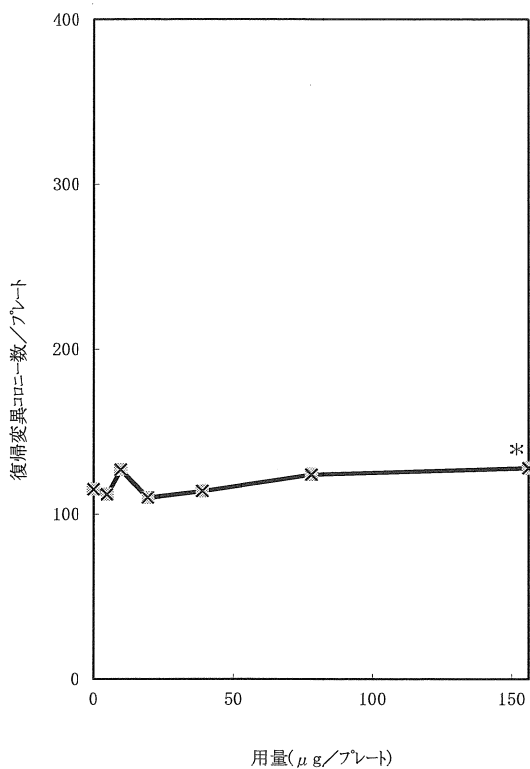


図-9 WP2uvrA/pKM101における用量-反応曲線
直接法による場合 (本試験)
(156 μg/プレートまでをプロットした。)

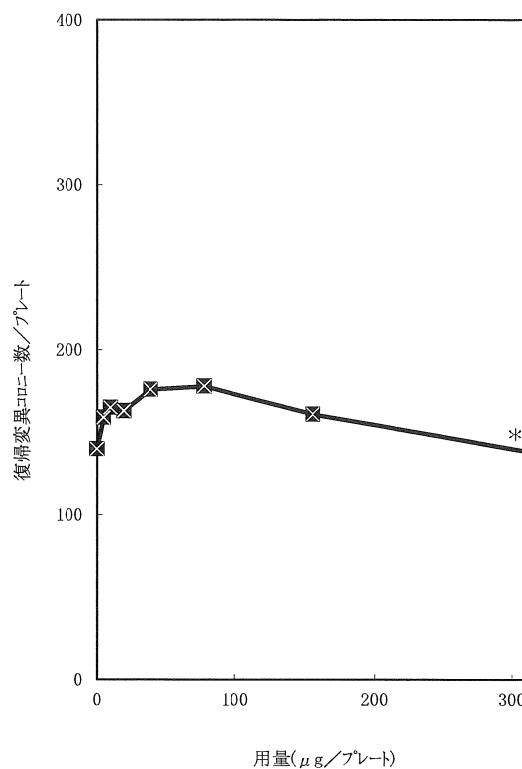


図-10 WP2uvrA/pKM101における用量-反応曲線
代謝活性化法による場合 (本試験)

注：生育阻害が認められる場合は、該当するポイントの左上に*を付した。